

警備業に理解を

うそ電話詐欺防止へ

山口でキャンペーン

県警備業協会(玉田晃会

長)と県警は「警備の日」の1日、警備業に対する理解を深めてもらい、うそ電話詐欺被害を防ごうと、山口市のJR新山口駅で街頭キャンペーンを実施した。

同協会は昨年10月、防犯ボランティアの支援や防犯講習の開催などで防犯対策を推進する「地域の安全対策に関する覚書」を県警と調印。覚書に基づき、県警と初めてキャンペーンを行った。同駅の南北自由通路



で会員と山口南書員ら計約20人がチラシとポケットテ

通行客に「警備の日」とうそ電話詐欺被害防止を訴える県警備業協会の会員11日、山口市

イッシュを通行客に配ってPRした。玉田会長は「うそ電話詐欺被害防止のため、警察と一体となって対応したい」と話した。

同日は、下関市のJR下関駅、岩国市の商業施設でもキャンペーンを行った。同協会は県内に本社や支

店を置く警備会社などで構成。警備員への教育訓練や警備業務の適正化に関する調査などを行っている。警備の日は1972年11月1日の警備業法施行日にちなんでおり、警備業に対する理解と信頼を高めることを目的に全国警備業協会が2015年に制定した。